

狀態（快樂）は、人間の肉体や精神をおとろえさせない長生きの秘訣、最大の美德であると考えた。そしてまた、こうした現象、心が燃えるという状態がなくなった瞬間から、体の老化現象が始まるとも説いている。心臓をドキドキさせ、体を熱くさせるもの、それはたとえばスポーツやセックス（欲望）である。どちらも肉体的、精神的な快樂を与える行為である。こうした人間の快樂（欲望）の自然な発露、そしてそれが最高頂に到達し、心や肉体が火のように燃え上がった状態こそが、人間的な本來的な姿だと考えたわけである。

試しに、インド密教やヒンズー教、ネバール・チベット密教などの曼陀

羅を見るとわかるが、そこにはいかにもエロチックな男女合体図が描かれている。この男女合体曼陀羅は、まさしく男と女における生命讃歌、心臓を熱くする美德のイメージ、シンボル化なのである。

では、ここでさまざまな欲望の形態をあげてみよう。

性欲、読書欲、金欲、スポーツ欲、のぞき欲、旅行欲、権力欲、派閥欲、撮影欲、編集欲など。

すべて、これらの欲望は心臓の動きを促進させる、密教的美德、つまり、ここでとりあげる『火的欲望』『火的宇宙』なのである。しかし、こうした興奮状態は非常に形象化しにくい。

だが、こうした興奮状態を人間からとりのぞいたら、何が後に残るだろうか？ そこには欲求不満という老化現象が残るだけである。

『窓際族』という『燃えない心臓』の持ち主、何を見ても無感動、無感激の人種が作りだされるだけである。

「火的世界觀」とはなんでも『燃えるもの』すべてに感動するということである。特に欲望は、火的人間にとて生命の源である、そしてまた、本能と欲望のおもむくままにビデオを撮るということは、ヒナリオの原点なのである。そこで今回は、読者の大好きな？『欲望の最高峰』性欲ヒナリオ法の実践法について解説してみたい。

ヒナリオ実践術⑥

ポルノ・ヒナリオ撮りは まず自分が画面に登場することから始まる

性欲とはもちろんセックスを意味する。なかにはセックスだけではないと反論する人もいるだろうが、ともかく性は人間が生きていくかぎり、つきまとう問題であり、ビデオ作品を制作する人にとっても、ただ見すごしてしまうわけにはいかない重要な問題である。

また、火的人間自身、セックスによる熱い心臓の鼓動は人好きであり、心の奥底では、ポルノ・ビデオを作つてみたいという欲望を持っているのである。

密教では「性のここちよい快樂もまた仏なり」と説いている。「美しい女性を見て『ひと目ぼれ』する、あのここちよい心臓の鼓動、なんともいえない不思議な『男心』、これまた仏なり」、そしてまた「恋をしてしまった男や女の、恋人に会いたいとか、恋しいという気持ち、これもまた仏なり」と説いているのである。つまり、仏は仏像やものにだけ存在するのではなく、人間の行為や精神の営みにも存在しているということである。だから、「彼女を撮りたい、彼を撮りたい、自分のセックスを撮つてお

きたい」という『撮りたい気持ち』、これもまた仏なり」というわけである。また、密教の經典には「性は仏が与えてくれた、男女間における最高のコミュニケーションである」という意味のことが書かれている。確かにセックスは、コミュニケーションの方法としては、ビデオ以上に魅力的な伝達行為である。なぜ、セックス・コミュニケーションがこれほどまでに魅力的かといえば、それは肉体と精神にかかわっているからである。

現代では、コミュニケーションが画一的（システム化）しており、手でさわったり、なめたり、にぎったり、抱き合ったりするという、感触的な人間本来のダイレクト・コミュニケーションが少なくなっている。そんな画一化された社会だからこそ、ポルノチックな裏ビデオが巷に蔓延するのである。実際、ビデオを持っている人のほとんどがポルノテープを持っている。もし、持っていないとしたら、上ほどの変人である！？

大多数のビデオファンは、ポルノが見れるから、ビデオを買うのであり、極端に言えば、現在のビデオブ

ームはポルノコミュニケーションによって築かれるといつても過言ではない。生命にみちた、現代における唯一の大衆コミュニケーションである裏ビデオ＝裏エンターテイメントは、ビデオファンの間で草の根が広がるように、強固なネットワークを築いているのである。つまり、性と映像が人衆（草の根）のレベルで、これほどガッチャリと深く手を結んだ時代は、過去の映像の歴史を見てもなかったことである。

草の根の読者諸君!! ポルノ・ビデオを作りましょう。ポルノ・ビデオはヒナリオ法における最高峰の芸術であり、今世紀における最高のコミュニケーション行為なのである。

ここで、実際にポルノ・ビデオ制作にとりかかる前にことわっておきたいことがある。それはビデオはきわめて個人的なメディアであり、秘密的メディアであるということである。これから進めるポルノ・ヒナリオ撮りもきわめて個人的で秘密的であるから面白いのである。また、撮影法も自己流であればあるほど面白いのである。まずは自分で、自分にカ

メラを向けて実践することが肝要である。自分は撮るだけ、見るだけという考えは、ヒナリオ法の精神には反する。自分みずから撮影に参加し、画面にも登場しないかぎり、ヒナリオ・ポルノ撮りは成立しない。それには、日頃から自分の日常生活にヒナリオ撮りをとり入れることである。ポルノを撮るのだと大上段にかまえずに取り組むことがポイントである。

筆者の友人であるカナダの女性ビデオアーティストの作品に、自分の肉体をブローアップレンズをつけて、隅から隅までナメるように撮りまくったものがある。この作品は実際に面白く、筆者も彼女にならって、自分の手や足からチンポコ、ケツの穴までをビデオに撮って、彼女に見せてやった。彼女はニタニタ笑って、「このテープを誰かに見せてあげなさい」と言った。「見た人は必ず、お返しに自分の体を撮ったテープと交換しようと言ってくるわよ……」とも言つたのである。そして、その後、筆者の家には、20本もの肉体クローズアップ・ソフトが集まつたのである。ヒナリオ・ポルノ撮りによるセックス生け撮り術もこれと同様、まずは自分みずから実践して、実現への糸口を切り開いてもらいたいのである。

もうひとつ、ポルノ・ビデオの撮影にとりかかる前に考えることがあ

る。それはポルノ・ビデオの道具だけでについてである。読者諸君が持っている2~3本のポルノ・ビデオを見るとわかると思うが、ポルノ・ビデオはストーリーや道具だけが結構、パターン的で、形にはまっている。では、そのパターン、ポルノ・ビデオに現われる道具だけをいくつかひろいあげてみよう。

〈ポルノ・ビデオによくててくる道具類〉

ベット、ロープ、バナナ、セーラー服、パンツ、ふとん、酒、グラス、口紅、バスタオル、シャワールーム、おふろ、ホテル、クサリ、ムチ、ナイフ、タバコ、コーヒー、ワイン、ミラーボール、ピンクの螢光燈、グッチワイフ、時計、クジャクの羽、フランクフルトソーセージといった具合で、きわめて限られている。それらはセックスのシンボルとして用いられているのである。アマチュアのホーム・ポルノ派としては、これらの既成概念、パターンにとらわれることなく、自由に作ることである。自分達で見て、個人的に楽しむのであるから、自由に楽しみながら撮つた方が、エキサイティングな作品に仕上がるはずである。

ここで、ひとつの実験をしてみよう。

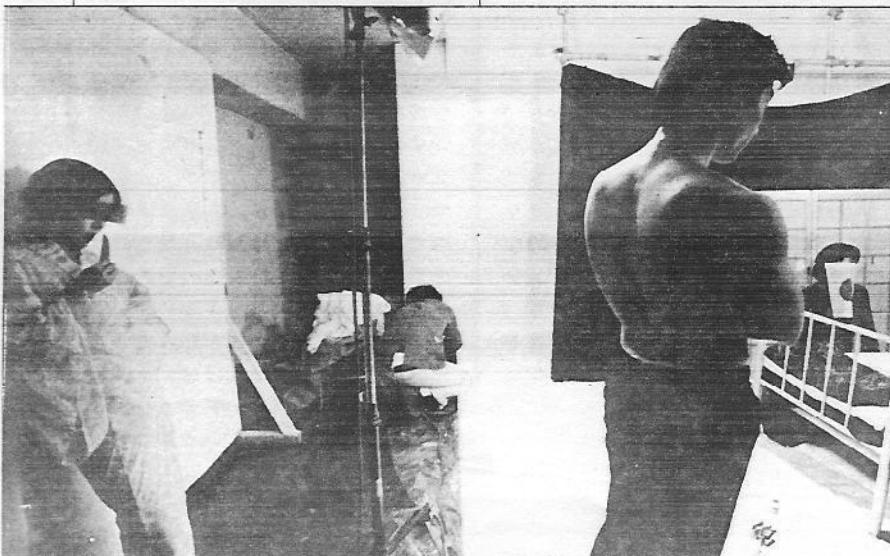
【実践1】

まず最初は、手持ちのポルノ・テープのセックスシーンだけを取りだし、次に女学生がバナナをいかにもうまそうに食べるところを克明に撮ったシーンをつなぐ。バナナの次はフランクフルトソーセージでもよい。ソーセージやバナナを、実においしく食べる女性を探すのがひと苦労であるが、ポルノ・ビデオ作りというのであれば、そんな労力などはいとわないはずである。日頃、ビデオやカメラを持つと「重たい」と言う老人のような諸君も、ポルノとあらば、がぜん若々しい生命が体全体にみなぎってくるはずである。まずは、自分が一番興味をひかれるセックスアビールのある道具や場所から、撮影をスタートすること。そうすればビデオ撮りも楽しくなるはずである。また、手持ちのポルノ・ビデオの編集ワークや撮影ワークをよく観察して、どこにどういうシーンを挿入すれば、より面白くなるのかを考えることも、ホーム・ポルノ・ビデオ作りの楽しみである。『11PM』や10チャンネルの『トゥナイト』などのお色気番組をコピーして、手持ちのポルノテープに挿入する。これまたホーム・ポルノ作りのひとつの方法である。

【実践2】

さて、いよいよ実際にオリジナルのホーム・ポルノを作る場合である。それはまず、自分でカメラを持ってセックスをすること。もちろん彼女や自分の奥さんにカメラを渡してしまうのもよい。その時、カメラのスイッチは切らずに、そのまま渡してもらいたい。できればカメラは2台あった方がよい。映像にリズムが出て面白くなるからである。また、カメラには、なるべく広角のレンズをつけること。そして、克明に自分達の体を撮りっこするところからスタートすることである。

セックス初体験の人は、なおさら克明に彼女の肉体を撮り、それから



△打ち合せの合間。ホーム・ポルノ作りでは、演技だけではなく、打ち合せから撮影することをお進めする。ホーム・ポルノ作りで一番面白いのは打ち合せ風景だ

ホーム・ポルノ

『文楽風・新婚ポルノ』

今回、写真で紹介する作品は、演出なし、なりゆきまかせの実験風ホーム・ポルノ。出演者は一応、3人。中央に文楽風黒子が登場し、主役の男女ふたりをいろいろと指示する。とりあえずは、この作品を1本作って、次にどう展開していくか、皆で話し合った。いうなら話し合いのためのポルノ・ビデオである。しかし、それにしても学生はポルノ作りが大好きであった。

〈使用機材など〉

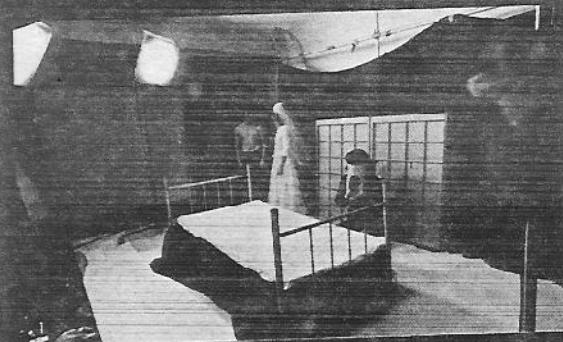
カメラ1台(フィックス)、トックリ、サカズキ2皿、ベット1台、暗幕2枚、ウェディングドレス1着、障子、 $\frac{3}{4}$ インチテープ(2時間分、カラー)、スタジオ(12m×15m)、フラットライト1(5KW)、スポットライト2、その他サービスライト

①筆者のビデオゼミで実践された学生ポルノ・ビデオのひとコマ。新婚初夜をテーマに、寸劇風のコミカルなタッチで、ポルノ作品作りに挑戦

②いいなりぬぎ始めた新郎。まわりのスタッフから「早くぬぎすぎだ——!!」と、ヤジがとぶ。この辺が、学生ポルノらしい面白さ

③パンツぬがせっこのひとコマ。「演技、演技」というかけ声にもかかわらず、ふたりの気分もだんだんのってきた

④⑤「ぬがせろ、ぬがせろ」という、まわりの声についにふたりもエキサイト(このベッドの黒い布の下には、男性がひとり隠れている)



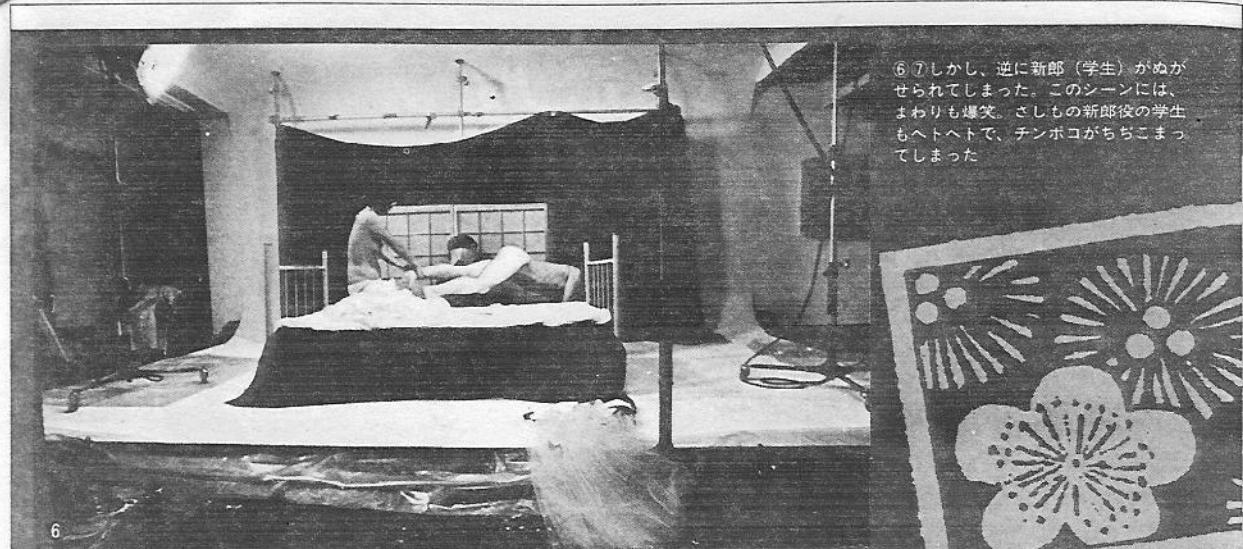
2



3

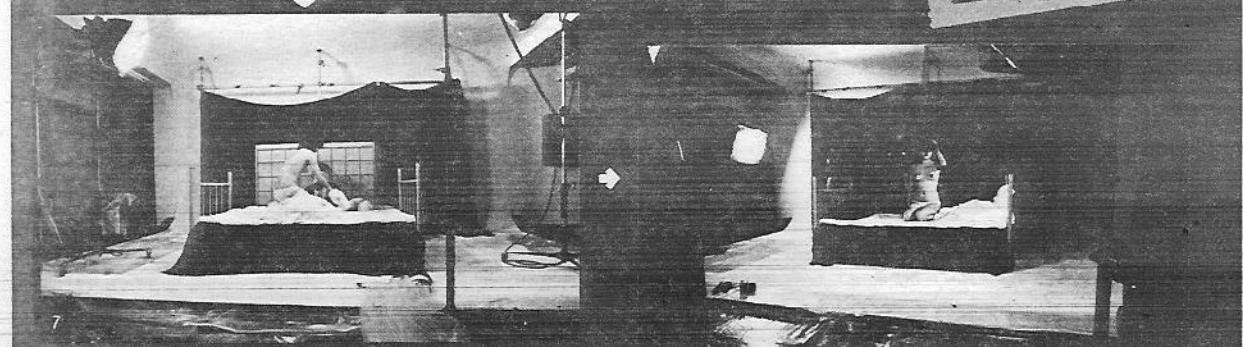


4



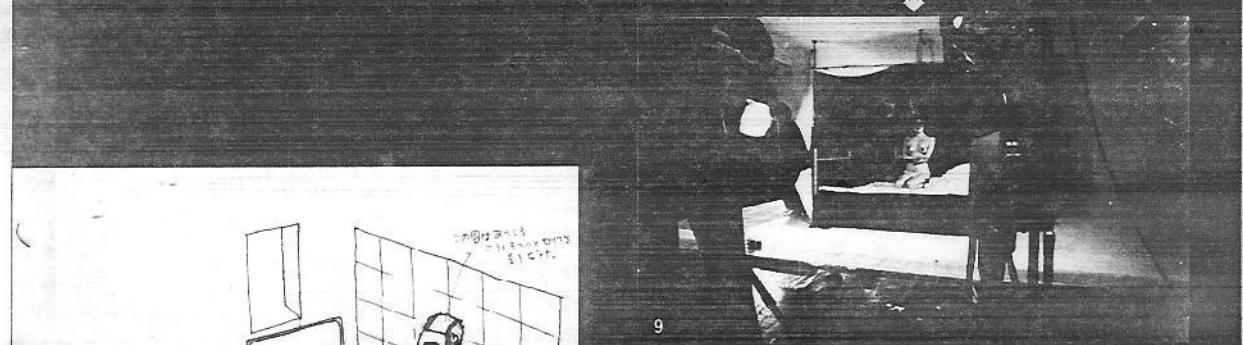
6

⑥⑦しかし、逆に新郎（学生）がぬがせられてしまった。このシーンには、まわりも爆笑。さしもの新郎役の学生もヘトヘトで、テンポコがちちこまってしまった



7

8

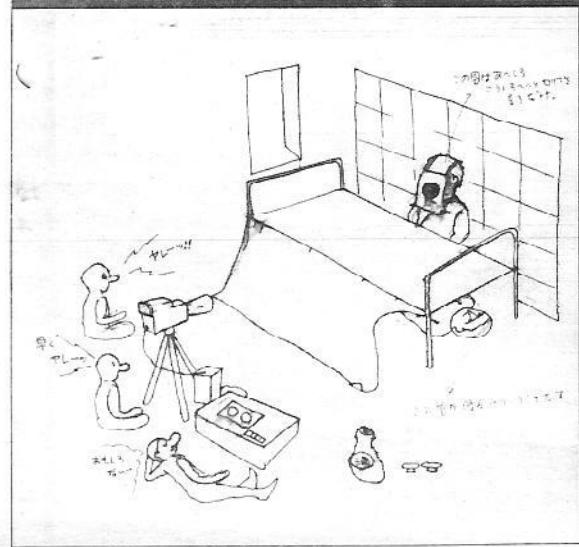


9

⑧役者、スタッフの全員集合写真。スタッフ（黒子）はすべて黒い服を着ているので、画面には現われにくい。だが、この黒子をうまく使うと非常に面白い画面になる。しかし、この写真のベッドの下にはまだひとり、黒子がいる。この黒子がいつ登場するか、それはこのボルノ作品を見ないとわからない

⑨カメラはフィックス、ドタバタボルノであったが、全スタッフが登場し、しかも黒子を使って文楽風にやったので、面白い作品となつた

【注1】 次の人間とは燃える物がないと存在感を發揮しない人。詳しくは第1号、第4号参照



セックスすることである。そうすれば精神的にも楽になり、撮影も二度、三度と回を重ねるごとに、だんだんとうまくなっていくはずである。女性の方も男性の肉体を撮ることから、スタートすべきである。多少、グロテスクなチンポコもビデオのビュー・ファインダーごしに客観的に見れば、彫刻的に見え、不安もなくなり、また、観察眼も発達してくるはずである。肉眼で見て、またカメラで見つめなおすという、ビデオならではの行為が映像感覚を鋭くするのである。

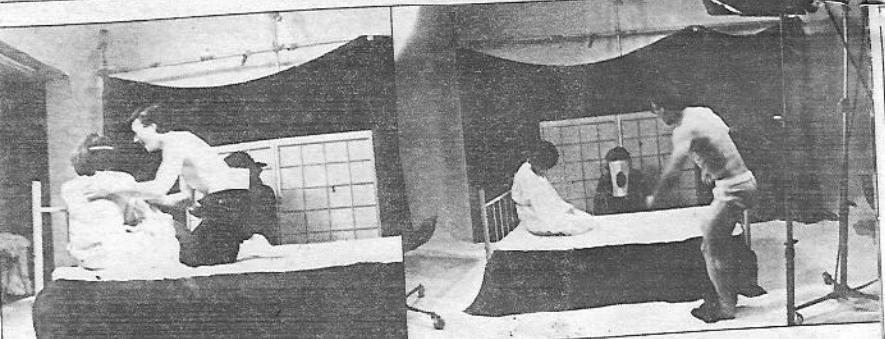
【実践3】

まず、ベットをひとつ用意し、部屋の中央に置く。そしてベットの四隅にカメラを1台ずつ、計4台セットする。もちろんVTRも4台必要である。もし、カメラとVTRを持っていいる4組の夫婦が、このポルノ・ビデオ撮りに合意すれば、この試みはもっと面白くなる。1組の夫婦に1台ずつ、カメラとVTRをセットして、撮影する。

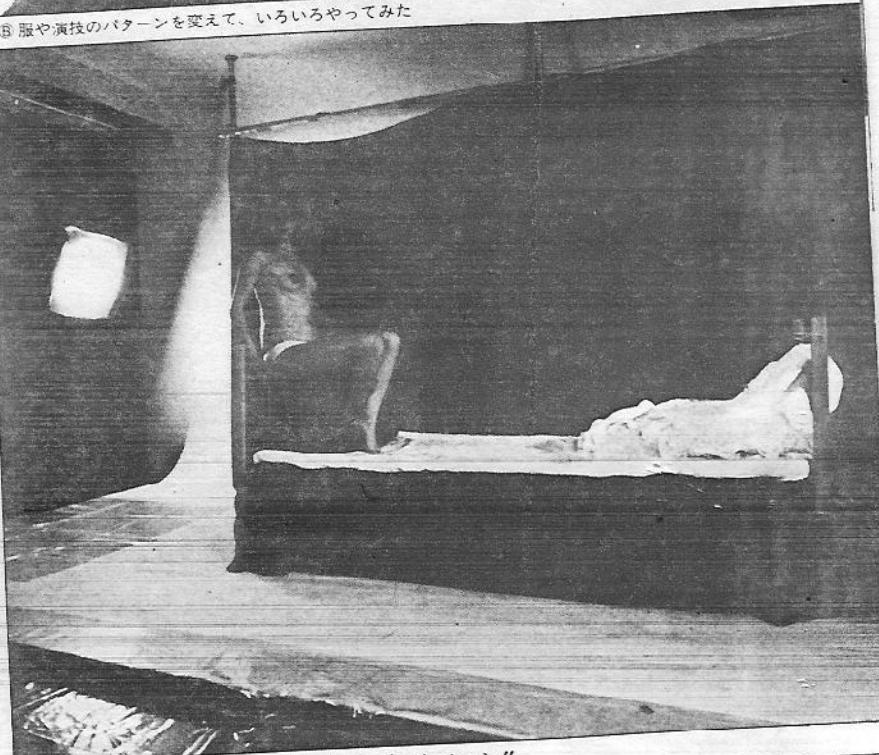
その他に用意するものは、羽ふとんか、羽まくら。ついでに扇風機も用意するとよい。

4台のカメラとVTRは同時にスタートさせる。セックス行為が、クライマックスに達する直前に、羽ふとんや羽まくらのなかの羽毛をつかみ出し、扇風機の方に持っていく、部屋中を羽毛だらけにする。この時、一発勝負の1本撮りであるから、男性はあまり興奮しないことが、成功の秘訣である。その他のことは、情況によって、とっさに対応してほしい。このとっさの対応がすこぶるホーム・ポルノ・ビデオ的面白いのである。

次に編集であるが、4本ものテープが一度に録画されるわけであるから、編集をどうやるかが問題である。まず、テープにA B C Dの番号をつけ、Aテープを最初に5秒つなぎ、次にBを6秒目からつなぎ、Cを11秒目からつなぐ。その後、D、A、Bといった具合に、5秒間隔でつないでみてほしい。少々、めんどうだ



◎服や演技のパターンを変えて、いろいろやってみた



◎ポーズをつけるモデルさん。なかなかいいプロポーション!!

が、時間のズレと、肉体の動きと羽毛の落下スピードとが、5秒間隔のカットバックによって、リズミカルに表現され、不思議な雰囲気のポルノ・ビデオが作りだされるはずである。写真で紹介した作品は筆者が1974年に制作したポルノ・ビデオである。黒子を登場させ、黒子に展開を指示させる『新婚ポルノ』という作品である。

読者諸君も実験精神を持って、真夜中のプライベート・ポルノ作りに挑戦してもらいたいものだ。

性は生命の根源であり、また、裏ビデオは人間が生きていくための潤滑油である。また、裏のないメディ

アは真に偉大なメディアではなく、裏が表になった時に初めてそのメディアは生命感あふれるメディアとなるのである。ビデオを生命感あふれる偉大なメディアにするためには、読者のエネルギー結集が必要なのである。自分で作って、自分で楽しむビデオの火的精神を基本において、一億総ホーム・ポルノ・ビデオ作りをめざそう。今やポルノは撮る時代に移っているのである。一億総国民がホーム・ポルノ・ビデオを作る。これこそがビデオをますますビデオらしくする、映像革命の第一歩なのである。